

サン・マルチン将軍 胸像由来記

本校図書館の中庭に、外国軍人の胸像が置かれている。台座の銘板を読むと、ホセ・デ・サン・マルチン将軍、即ちアルゼンチン、チリ、ペルー三国の解放と独立の英雄で、1956年3月6日、日本、アルゼンチン両国の友好と平和を記念して、アルゼンチン大使キロス氏が日本国民に贈ったものであることを知ることができる。

この胸像が防衛大学校に設置された由来について、朝井一男本校名誉教授の知るところが多いと聞き及び、病床に日を過ごしておられる同教授に無理をお願いして御話を伺った。

それによると、同氏が会長を勤めておられる防大山岳会が第二回海外遠征登山として、1968年～1969年にアルゼンチン中部アンデスの六千米級最後の処女峰初登頂に成功した折、同遠征後援会の世話人の一人に今は故人となった日本アルゼンチン協会会長、元神奈川県知事の内山岩太郎氏がおられ、同氏と協会事務局長南雲克太郎氏とによりサン・マルチン将軍胸像設立の事情を知ることができたとの事である。

日本アルゼンチン協会は、日本とアルゼンチン両国間の友好親善関係を促進し、文化の交流と通商貿易の進展に寄与すると共に、進んでアルゼンチン国の経済開発に貢献するを目的として終戦後いち早く創立され終始その線に沿って活動を続けており、昭和43年4月、創立以来の活動をまとめて小冊子“日本アルゼンチン協会の歩み”を刊行した。朝井名誉教授のお話では、本校図書館に一冊寄贈された筈で、その中に胸像由来記が掲載されているとの事であったが、図書館には寄贈されておらず、改めて同協会に贈って戴くと共に、今は引退されて横浜市保土ヶ谷区にお住まいの南雲氏を訪ね、記事行間のこぼれ話を聞いて戴いたので以下にこれらをまとめてみよう。

ホセ・デ・サン・マルチン将軍は南アメリカ独立運動の英雄で、1778年2月25日スペイン士官を父としてアルゼンチン北部のヤペユに生まれた。9才の時スペインに渡り、マドリッドで軍人教育を受けて王室軍に入隊、15才で少尉に、30才で中佐に昇進した。ナポレオンとの戦いで武勲をあげた彼は1812年大佐に昇進する予定であったが、南アメリカ諸国がスペインからの独立に蜂起した知らせに接するや、大佐昇任の前夜退役し、生まれ故郷のアルゼンチンに帰り革命運動に参加した。

ブエノス・アイレスの革命政府のもとで軍隊を訓練した彼は、1812年ホセ・バザラ将軍指揮のスペイン軍をサン・ロレンゾにおいて撃滅、ついで亡命中のチリの革命家オイギンスの軍と共にアンデス山脈を越えてチリに入り、1817年チャカブコの戦いでスペイン軍を打破ってチリを解放した。ここで彼は海軍を再編成して海路ペルーに向い、1821年リマを攻略して独立を宣言した。

翌年、南アメリカ北部の解放者シモン・ボリバルとグアヤキルで会見した彼は、相互協力を期待しつつ、独立運動と南アメリカの将来について語り合ったが、政治権力への志向にとぼしかった彼はボリバルと合意に至らず、会見は物別れに終わってしまった。

折から病を得た彼は、政争からのがれるように再びヨーロッパに渡り、1850年8月17日パリで客死した。しかしアルゼンチン国民の彼への敬愛の念は深く、1880年彼の遺体はブエノス・アイレスに運ばれて中央寺院に再埋葬された。現在もアルゼンチン国民は最大のリベルタ・ドール（解放者）として彼を尊敬している。

戦後の初代駐日アルゼンチン大使カルロス・キロス氏が離任帰国に際し、記念にと一枚の写真を元にサン・マルチン将軍の胸像製作を彫刻家小島正男に委嘱した。初め等身大ということで見積もられたが、小さ過ぎるので等身2倍となり、二倍であるから予算も二倍というラテン民族特有の大きさに、小島氏も両国親善の為と心よく引受けられ、その出来栄の見事さにキロス大使も感心されたとの事である。

大使はこの胸像を東京都に寄贈する予定であったが、東京都には外国偉人の銅像がどこにもなく、前例がないということで断られてしまったのである。たまたまそれを聞いた日本アルゼンチン協会会長内山氏が、知人の海軍退役将官を通じて防衛大学校へ寄贈の話が持ち込まれ、当時の横校長の御快諾により、昭和31年7月正式に寄贈されたものである。

最初の三ヶ月間、胸像は図書館内に保管されていたが、昭和34年日本アルゼンチン協会より台座が寄贈されて図書館中庭に胸像が設置され、次いで昭和36年フロンディジ大統領訪問を機会に再び同協会が玉伊吹の植樹を寄贈し、胸像の周辺に緑の装いを添えてくれた。

在京アルゼンチン大使は、サン・マルチン将軍の命日である8月17日には毎年花輪を捧げており、アルゼンチンから大統領、外務大臣、練習艦等が公式訪問の際は必ずこの胸像を訪れ花輪を捧げるのを常としている。

日露戦争の折、日進・春日の両艦をアルゼンチンが快よく日本に譲ってくれた有名な話がある。今も同国海軍博物館には、春日の銘板とピアノが保管されているとの事、戦前戦後を通じて変わらぬ両国の友好の為に、縁あって寄贈されたホセ・デ・サン・マルチン将軍の胸像を大切に、8月17日のサン・マルチン祭には共に同将軍の偉大さを称えたいものである。

(当時 化学教室 渡辺芳彦助教授の投稿記事より)



サン・マルチン将軍胸像(球技体育館横)